2025 年度　総合人文学科　出張講義　一覧

No.	講義タイトル	講義内容	担当教員	講義形式	開催曜日（前期）※	開催曜日（後期）※	備考
1	「死生学」って何だろう？	現在、死をめぐる問題へ関心の高まりがみられます。そして日本の大学では次々に「死生学」が開講されるようになってきました。わたしたちの身辺には、生と死に関してどのような諸問題があるでしょうか？そして死はどのように理解されているでしょうか？「死生学」の基礎を学んでみましょう。	原田浩司	聴講形式	火	火	
2	キリスト教教育	キリスト教教育は、聖書・キリスト教をベースとした教育です。聖書・キリスト教は、文化や芸術、道徳観や倫理観など様々なものを生み出しました。すなわち、聖書・キリスト教を知ることで、これらのことをより深く理解することができることになります。本講義では、テーマを設定し、それに対して聖書・キリスト教の思想や歴史がどのような影響を与えているかを議論しながら考えていきます。	大門耕平	アクティブラーニング	水	水	
3	なぜ人は悪を行うのか	人間が犯す悪はさまざまで、戦争、独裁、殺人、盗み、姦淫、また、より身近なこととしては、嫉妬、怒り、強欲などが挙げられます。人間はなぜこうした悪を行うのでしょうか。古代末期に生きた思想家であるアウグスティヌスは、その問題を生涯思索し、特に人間の心の内にある「意志」の歪みを根本原因として考えました。授業では、こうしたことについてじっくりと考えていきます。	渡邉蘭子	聴講形式	月	月	

No.	講義タイトル	講義内容	担当教員	講義形式	開催曜日（前期）※	開催曜日（後期）※	備考
4	音楽と社会	私たちは音楽に囲まれて生活しています。音楽はその起源から私たちの生活と密接に結びついて創られてきました。古今の音楽は芸術作品であるとともに、それぞれの時代を写す鏡とも考えることができます。バロック時代から現代までの音楽を通して、各時代、地域の社会・文化を知ることができます。そして私たちの生きている現代社会を音楽から考えます。	椎名雄一郎	聴講形式	月	月	
5	西洋美術とキリスト教	西欧社会で制作された美術作品の根幹にはキリスト教が深くかかわっています。なぜならば最初期は、教会が「美術」作品の注文主だったからです。多くの作品は今では美術館に収められていますが、他方、教会に現存する作品も多数あります。これらの「作品」はどのように見れば良いのでしょうか。その見方を簡単にご説明します。	渡邊有美	聴講形式	月	月	
6	アメコミ・ヒーローを通してみるアメリカ的ユートピアニズム	アメリカ社会の底流には、植民地時代以来、ユートピア（理想郷）の実現を追求する伝統が存在しています。その伝統は、20 世紀前半に誕生し、今日に至るまで時代を超えて愛されてきたアメリカン・コミックのスーパーヒーロー像にも影響を与えてきました。スーパーヒーローたちの姿を通して、アメリカ社会の一断面としてのユートピアニズムを探求します。	藤野雄大	聴講形式	月	月	
7	現代社会と宗教	統一教会やエホバの証人など、キリスト教系の新宗教の問題がさまざまな形で騒がれています。こうした新宗教の何が問題なのか、様々な具体的事例を通して講義いたします。	川島堅二	聴講形式	火	火	

No.	講義タイトル	講義内容	担当教員	講義形式	開催曜日（前期）※	開催曜日（後期）※	備考
8	聖書の背景を学ぶ	聖書は誰が、どこで、どのように記したのでしょうか。本講義では聖書の成り立ちについて学びたいと思います。	吉田新	聴講形式	水	水	
9	旧約聖書の不思議	旧約聖書のなかの『創世記』には不思議な話がいろいろ出てきます。こういった書物を大学で研究するときの具体例をお話ししたいと思います。	田島卓	聴講形式	火	火	
10	旧約聖書と現代	旧約聖書はキリスト教の聖典であるのみならず、ユダヤ教の聖典でもあり、イスラームでも重要視される書物です。同じ書物を読んでいるにもかかわらず、なぜそれぞれの宗教の間に対立があるのでしょうか。また、そういった対立状況は、この多様性が重視される時代に、何かを語ってくれるのでしょうか。意外なことに、旧約聖書それ自体の中に、対立と共生についての視座が隠されているとしたらどうでしょうか。混迷の中にある現代だからこそ、旧約聖書を研究する意味を学びます。	田島卓	聴講形式	火	火	

※　「開催曜日」について

(1) 本学の授業開講期間に出張講義を行う際の開催曜日の目安となります。

(2) 「前期」は本学の「前期授業開講期間」を指します。

(3) 「後期」は本学の「後期授業開講期間」を指します。

(4) 開催曜日であっても都合により出席できない場合があります。

(5) 授業休講期間（夏休みなど）の講義開催曜日は不定となります。

(6) 本学の学事暦は本学ホームページ（https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/campuslife/schedule.html）をご確認ください。